

# 環境・文化部会

## ◇ 部会の経過

日 時 ・ 場 所 等	内 容
第1回環境・文化部会（第4回市民会議） 平成24年4月18日（水） 18:30～20:30 野幌公民館 ホール	マトリックス（縦軸にハード・ソフト・ハートづくり、横軸に短期・中期・長期）に第1回～第3回市民会議で出された意見を整理。
第2回環境・文化部会（第5回市民会議） 平成24年5月14日（月） 18:00～20:30 市役所 市長公室	北海道立野幌総合運動公園、広報えべつに掲載のあった主な活動結果（文化・スポーツ）、リサイクルエネルギーについて、事務局から説明。 第1回部会で整理したマトリックスをもとに、まちづくり政策・戦略テーマを検討。
第3回環境・文化部会（第7回市民会議） 平成24年8月9日（木） 18:00～21:15 市役所 西棟会議室1号・2号	第6回市民会議（全体会議）での意見交換を踏まえて、まちづくり政策・戦略テーマをさらに議論。意見の絞り込みを行い、戦略テーマを決定。
第4回環境・文化部会（第8回市民会議） 平成24年9月5日（水） 18:30～20:20 市民会館 21号室	まちづくり政策・戦略テーマを提言書にまとめるため、第3回部会の結果をもとに作成した提言書のたたき台について議論。
第5回環境・文化部会（第9回市民会議） 平成24年9月17日（月） 18:30～20:50 市役所 市長公室	まちづくり政策・戦略テーマを提言書にまとめるため、第4回部会の結果をもとに作成した提言書のたたき台について議論。

## ◇ 部会委員の構成

氏 名	所 属 ・ 職 名 等
押 谷 一	部会長・有識者委員 酪農学園大学 農食環境学群 環境共生学類（兼地域環境学科） 教授
草野 靖広	市民委員
齊藤 良枝	市民委員
高儀 武志	市民委員
内藤 祐貴	市民委員
中野 和代	市民委員
野戸谷 睦	市民委員
山田 明美	市民委員

## ◇ 部会長報告（議論の概要や方向性、部会の想いなど）

地球の温暖化からエネルギーや身近なごみ問題に至るまで、環境問題はわたしたちのくらしと密接なかかわりをもっている。

江別市は、道内の他の自治体に比べて高いリサイクル率が示すように市民の環境に対する関心は高く、野幌森林公園、石狩川など豊かな自然環境にも恵まれている。

しかしながら、まちづくりにおける環境問題に対する取り組みについては、十分とはいえない課題も多く残されている。本部会では、環境ならびに文化という視点について市民委員の方々がそれぞれ持っておられる関心領域や問題意識を自由に提示することからはじめた。委員からは幅広い意見が多く出されたが、つぎの四つの戦略テーマに分けて、それぞれの実現のための方策について整理することとした。

第一の戦略テーマは「環境と共生し、エネルギーの地産地消をめざすまちづくり」である。環境問題に対する取り組みは、多岐に亘るが、この部会では、まちづくりに求められることについて「自然エネルギーの利用」、「景観」、「共生」の三点に絞って議論した。

第二の戦略テーマは「文化のあるまちづくり」である。江別は、有史以前から始まり開拓期、そして現在に至るまでの豊富な歴史を有している。これらを地域の固有の文化として捉えて、その活用のあり方について多様な意見がだされた。さらに市内の特色ある文化施設をさらに活用すること、子どもたちから大人まで一流の音楽に触れる機会を増やすことなどについても議論した。

第三の戦略テーマは「スポーツ振興による健康なまちづくり」である。市民がスポーツに親しみ、健康促進を図ることのできるまちづくりのあり方について議論した。

第四の戦略テーマは「効率的な行政サービスを推進するまちづくり」である。本部会では、他の部会において所管していない行政サービスのあり方について議論した。江別市自治基本条例にもとづく市民の意見を反映するための市民会議の設置をはじめ、市の財政基盤の強化などについても議論した。

本部会に参加された市民委員の方々はそれぞれ「環境・文化」に対して多くの意見や具体的な取り組みのあり方についてお考えを持っておられることから積極的な議論がなされた。より良い環境づくりや地域の文化を大切にすることは、豊かな生活環境を持続的なものにするために不可欠な要素であり、市民一人ひとりがさまざまな取り組みに興味を持ち、参加することが重要である。本部会で議論されたてきたことを市民の共通の認識としていかなければならない。

環境・文化部会 部会長 押谷 一

# 1. まちづくり政策提言

～ 環境・文化分野におけるまちづくり全体の方向性（マトリックス図参照）

## (1) 短期的な取り組み

ハード	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 環境と共生した生活空間の創出 (例. 住宅街の自然環境の保全、桜並木など住民交流の憩いの場の整備、リサイクル活動の推進、河川防災ステーションを環境学習の場に活用)</li> <li>② 既存の文化施設の充実 (例. 点在している既存施設の連携、既存施設の再利用などの有効活用)</li> </ul>
ソフト	<ul style="list-style-type: none"> <li>① まち中の自然の保全・充実 (例. 大麻中央公園、湯川公園をホタル舞う公園に再整備)</li> <li>② 環境都市の推進 (例. 先進的に取り組んでいるリサイクルで環境先進都市のイメージづくり、学生ボランティアによる野幌森林公園などでの環境学習ツアーの実施、環境保全のルールづくり、不法投棄・タバコのポイ捨て防止)</li> <li>③ 音楽活動の推進 (例. PMFの誘致、市民主体によるPMFのワークショップの開催、吹奏楽の指導者を学校に配置、学校の吹奏楽活動への経済的な支援、子どもたちがクラシックと触れ合う機会の提供)</li> <li>④ 文化溢れる環境の整備 (例. やきもの市の盛り立て、江別の歴史教育、文化施設を巡るバスルートの設定とPR)</li> <li>⑤ スポーツ活動の推進 (例. ご当地マラソンの開催、子どものスポーツ活動への経済的な支援、体育館や学校施設の子どもたちへの開放、プロスポーツに触れ合う機会の提供)</li> <li>⑥ 市民自治の推進 (例. 行政を監視する市民会議の設置、市民ニーズの多様化に対応した市役所の体制整備、子どもの視点や意見を取り入れた行政サービス、総合計画の進行管理をする市民会議の設置、市民参加条例の制定、市民意見を反映させるための市民への情報提供の充実)</li> </ul>
ハートづくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>① ゆとりある生活環境の整備 (例. ほっとできるゆとりある環境づくり、住民と行政のコミュニケーションによる市街地開発の方向性の検討)</li> <li>② きめ細やかな行政サービスの提供 (例. 窓口のワンストップ化、担当窓口の明確化)</li> </ul>

## (2) 中期的な取り組み

ハード	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 既存の文化施設の充実 (例. 文化施設周辺で食事ができる環境の整備、情報図書館の開館時間の統一と月曜開館、施設整備の際の市民意向把握)</li> <li>② 再生可能エネルギーの活用 (例. ごみ焼却処理場の熱、下水処理場のメタンガスの利用)</li> <li>③ スポーツ振興による健康なまちづくり</li> <li>④ 江別高校跡地の有効活用</li> </ul>
ソフト	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 自然エネルギーの活用 (例. 雪の冷熱エネルギーの活用)</li> <li>② 財政基盤の強化 (例. 有名人によるふるさと納税、市の税収を上げる取り組み、市政の重点分野の指針の明確化)</li> <li>③ 市民自治の推進 (例. 自治会との連携した総合計画などの検討)</li> </ul>
ハートづくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>① きめ細やかな行政サービスの提供 (例. 市役所内の情報の共有)</li> <li>② 地域文化の振興 (例. 屯田兵の歴史を知ってもらう)</li> </ul>

## (3) 長期的な取り組み

ハード	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 自然エネルギーの活用 (例. 太陽光、風力、水力の活用)</li> <li>② 環境都市の推進 (例. 環境先進都市を参考にしたまちづくり)</li> <li>③ 文化施設・スポーツ施設の充実</li> </ul>
ソフト	<ul style="list-style-type: none"> <li>① スポーツ活動の推進 (例. 指導者を育成して各学校で指導、市民一丸となった地元スポーツチームの応援)</li> <li>② 再生可能エネルギーの活用 (例. バイオマスプラント整備への補助)</li> <li>③ 地域資源の活用 (例. 泥炭土の活用)</li> <li>④ 江別独自の施策の推進 (例. 子育て支援、福祉サービス等に繋がる経済力のあるまちづくり、札幌に頼らない独自の行政、住民税の負担軽減)</li> </ul>
ハートづくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 芸術的な街をめざす</li> <li>② きめ細やかな行政サービスの提供 (例. ことなかれ主義の組織風土の改善)</li> </ul>

## 2. 戦略テーマ提言

<b>戦略テーマ名</b>											
環境と共生し、エネルギーの地産地消を目指すまち											
<b>どんな状態にしたいのか</b>											
<p>環境における戦略テーマについて、(1) 自然エネルギーの利用、(2) 景観、(3) 共生の三点に分けて整理した。</p> <p>自然エネルギーの利用については、再生エネルギー固定価格買取制度を受けて太陽光、風力等の自然エネルギーの利用を積極的に促進するため、数値目標の設定を目指す。またエネルギーの地産地消を図っていく。また、雪についても農産物の保存用に利用している先進事例を参考に地域における未利用エネルギーとしてその活用をめざす。</p> <p>景観については、生活環境の質において重要な要素であると捉える。できる限り密集傾向のある住宅街においても緑地の保全や公園・街路樹などの整備によって、ゆとりの空間を確保し緑豊かな江別らしい景観づくりをめざす。さらに新たに造成する住宅街や再開発を行う際には、建物の色合いの統一を図ること、広告看板などに一定の制限を課すること、電線を地下に埋設することなど街の景観に十分に配慮したまちづくりを推進する。</p> <p>共生については、石狩川、野幌森林公園など豊かな自然環境に恵まれている江別においては、一人ひとりが環境に徹底的にこだわることによって環境の保全と生活を調和させていく。快適な生活環境を創造することによって、いつまでも住み続けたいまちをめざす。例えば、市街地のなかにある公園を子どもたちがのびのびと安心して遊ぶことができ、市民が憩い、ゆとりを感じる空間として整備する。</p>											
<b>立案背景</b>											
<p>江別は、道内の他都市と比べてごみの排出量は少なくリサイクル率は高い。これは市民一人ひとりの環境に対する関心が高いことを示している。昨年福島第一原子力発電所の事故を契機に自然エネルギーに対する関心が高まっていることから江別においても自然エネルギーによるエネルギーの地産地消をめざしていくことが求められている。市庁舎の壁面に実証実験用の太陽光発電パネルが設置され、庁舎で使用されている電力の一部がまかなわれていることや、八幡地区にある環境クリーンセンター敷地内に民間企業がメガソーラー（大規模な太陽光発電）を設置することとしていることなどを踏まえて、市民は、エネルギーの地産地消について関心が高くなっている。一方、一人当たりの都市公園の面積は（野幌原始林や河川の緑地等を除いて）他のまちに比べて少ないことから子どもたちをはじめ市民が日常的に豊かな自然環境に触れ、自然と共生することのできる市内の公園を整備することが求められる。</p>											
<b>立案に関するデータ</b>											
○ ごみとリサイクルの状況（道内他都市との比較）											
指標名	調査年	単位	江別市	小樽市	北見市	岩見沢市	千歳市	恵庭市	北広島市	石狩市	平均
人口1人あたり ごみ総排出量	平成 19	t	0.35	0.40	0.40	0.46	0.50	0.35	0.40	0.33	0.40
ごみのリサイクル率	平成 19	%	30.6	20.9	19.6	18.0	13.6	24.3	18.0	26.7	21.5

## ○ 公園面積（道内他都市との比較）

指標名	調査年	単位	江別市	小樽市	北見市	岩見沢市	千歳市	恵庭市	北広島市	石狩市	平均
人口1人あたり都市公園面積	平成21	m <sup>2</sup>	16.3	9.7	24.8	40.6	44.3	20.4	38.0	22.2	27.0

※統計上の公園区分の関係で野幌森林公園の面積や河川の緑地部分が含まれていません。

## ○ 累計降雪量（cm）

区分	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	5年平均
江別市	494	489	442	643	588	531.2
札幌市	423	492	485	490	399	457.8
岩見沢市	489	620	546	697	622	594.8

※札幌市は、札幌管区気象台（札幌市中央区）の降雪量の記録

## ○ 最高・最低・平均気温の推移（℃）

区	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	5年平均
最高気温	34.5	34.5	29.9	31.6	31.8	32.5
最低気温	-22.1	-20.9	-26.1	-20.2	-22.7	-22.4
平均気温	7.0	7.4	7.3	7.5	8.0	7.4

## ○ 大規模太陽光発電所（メガソーラー）について

平成24年7月2日、帯広市に本社のある『道東電機㈱』と東京都に本社のある『ソーラーフロンティア㈱』が、江別市内で、大規模太陽光発電所（メガソーラー）を共同で建設・運営する、基本合意書を締結。

建設予定地は江別市八幡にある環境クリーンセンターの敷地内3.8ヘクタールで、出力約1,500kWの発電所を計画。

今年10月から着工し、稼働開始は来年3月を目指している。

## 戦略テーマ実現への方策

### 【短期】

#### 1 ハード

既存の市街地にある公園や街路樹などを市民が憩い、安らぎを感じることでできる生活空間として計画的に整備する。また、河川防災ステーションなどの既存の公共施設を環境学習の拠点として活用する。

#### 2 ソフト

江別市民の環境に対する意識は、他都市に比べて高く、リサイクルのための分別回収などに先進的に取り組んでいるが、自然環境とふれあう機会が少ないことから、市内の大学等と連携して野幌森林公園などにおいて市民が豊かな自然にふれあうための環境学習に取り組む。身近な環境から、地球的規模の環境問題まで関心を持つことにより、ごみの不法投棄やポイ捨て等の禁止や喫煙禁止区域の設定などの環境保全のルールを定めていく。

また、先進的なリサイクルの取り組みをさらに推進するとともに、市内の公園にホテルが生息できる環境づくりを進め、環境先進都市としてのイメージづくりを行う。

#### 3 ハートづくり

市民一人ひとりが環境に関心をもち、「ほっ」とできるゆとりのある生活環境を創造する。これから住宅街として整備する地域や再開発を行う際には、住民と行政がコミュニケーションを密にして景観や環境に配慮したまちづくりのあり方を検討する。やがて、すべての市民が環境に関心をもつことによって「徹底して環境にこだわる」まちとなる。

## 【中期】

### 1 ハード

市内の公園などを市民が日常的に環境に触れ合うことのできるように野外活動を楽しめるようにするとともに、子どもたちが安心して自然とふれあい伸び伸びと遊ぶことの出来る空間として整備する。

市役所庁舎などの公共施設に、太陽光発電パネルなどの設置を進め、環境に対する取り組みの事例として紹介し、市民の意識を向上させるためのモデルとする。

### 2 ソフト

「徹底して環境にこだわる」まちづくりのために、他都市の実践例など、環境対策事例を積極的にPRし市民に提供する。市民向けのパンフレット作成や学習会などを行って行政と市民などが一丸となって環境対策を進める仕組みをつくる。

### 3 ハートづくり

市民一人ひとりが環境にこだわることによって、全市的に生活環境が改善されることにより、都市と農村の調和のあるまちとしていく。

## 【長期】

### 1 ハード

八幡地区にある環境クリーンセンター敷地内における民間資本によるメガソーラー（大規模な太陽光発電設備）の計画をきっかけにして、環境保全型企業を積極的に誘致し、エネルギーの地産地消をめざす。農業者に対するバイオマス（生物由来の資源；メタンガス、バイオエタノールなど）利用を促進するための情報提供や設置のための費用を一部補助する。

### 2 ソフト

行政、市民、産業界、大学等が連携して環境とまちづくりをテーマに自由に研究し、実践していく仕組みづくりを行う。例えば、降雪量が多い江別の特徴を生かして、雪の冷熱エネルギーの活用の研究を進める。

### 3 ハートづくり

市民一人ひとりの環境に対する意識を高めていくことにより、江別のまちづくりは、環境に配慮したオンリーワンになり、転入者や新規産業の誘致を増加させ地域経済にも貢献していく。

## 戦略テーマ名

### 文化のあるまちづくり（音楽など）

#### どんな状態にしたいのか

文化については、（１）文化施設の利便性向上、（２）文化的催し（PMF）の開催、（３）歴史文化の継承の３点に整理した。

市内には、音楽専用のホール、図書館、公民館、体育館などの多様な文化施設があるが開館時間や休館日などを見直して市民がさらに利用しやすくする。

毎年夏に札幌市などを中心に行われているPMFに参加している演奏者を招き、市民が生音楽に触れる機会を増やす。音楽、演劇などさまざまな分野の文化的な指導者を育成し、市内の小中学校や市民のサークルなどを指導する。

江別は古代から人びとが暮らしてきた地域であることを埋蔵文化財から学ぶ。さらに北海道の開拓の歴史に果たしてきた江別の役割などを市民、とりわけ子どもたちに伝えていく。

#### 立案背景

江別市内には音楽専用のホールをはじめ複数の文化施設があるが、市民アンケートによれば芸術文化活動に参加している市民はおよそ半数にとどまっている。情報図書館などの施設の開館時間、休館日を見直し、施設利用のための公共交通を見直すことによって、利用が増えることが期待される。利用者層を拡げるためにPMF参加者によるミニ・コンサート等の新しい取り組みによって市民の潜在的な文化的なものへのニーズに応えることが必要である。また、江別は北海道内において有数の歴史的な地域であることを伝承していくことも求められている。

#### 立案に関するデータ

##### ○ 江別市まちづくり市民アンケート（※前年度の取り組みに対する意識調査）

区分	19年度	21年度	22年度	23年度
芸術文化活動に参加している市民割合（％）	51.4	45.0	—	48.6
各種文化事業参加者数（人）	85,863	94,664	76,972	74,405
市民組織による芸術文化事業数（件）	85	87	85	77

##### ○ 市内の主な文化施設の利用者数の状況（人）

区分	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度
情報図書館	208,148	208,769	213,185	207,997	211,113
中央公民館	30,196	28,748	28,556	30,065	27,715
野幌公民館	122,357	128,318	129,006	128,935	126,444
大麻公民館	59,570	58,205	59,010	58,448	59,262
郷土資料館	3,948	4,427	4,989	4,312	4,977
セラミックアートセンター	21,683	15,760	25,886	16,789	17,386
江別市民会館	150,720	176,749	169,435	151,506	195,239
江別市民文化ホール（えぼあホール）	42,463	42,700	42,049	43,163	46,077
コミュニティセンター	153,267	208,962	207,322	225,759	196,342

○ 市内の主な文化施設の開館状況

区分	開館時間
情報図書館(本館)	日・金 10:00～17:00、火・土 10:00～19:00、水・木 10:00～21:00 休館:月、毎月第4金曜日、6月中1週間(図書整理)、12月29日～1月3日
各公民館(3館)、 コミュニティセンター、 江別市民文化(えぼあ)ホール	9:00～21:00、休館:月、12月29日～1月3日
郷土資料館、セラミックアートセンター	9:30～17:00、休館:月、祝日の翌日、12月29日～1月3日
江別市民会館	9:00～21:00、休館:12月29日～1月3日

○ PMF(パシフィック・ミュージック・フェスティバル)の活動状況

<2012年アンサンブル演奏会(アウトリーチコンサート)>

- ・ JR札幌駅南口1階西側コンコース「妙夢」前
- ・ もいわ山中腹エリア フォレストギャラリー
- ・ 札幌市清田区民センター
- ・ 札幌時計台ホール
- ・ アルテピアッツァ美唄アートスペース
- ・ 奈井江町文化ホール
- ・ 北海道庁旧本庁舎(赤レンガ)
- ・ 北海道立三岸好太郎美術館
- ・ 札幌市東区民センター
- ・ 札幌市役所1階ロビー
- ・ 富良野演劇工房
- ・ 北広島市芸術文化ホール(花ホール)

**戦略テーマ実現への方策**

**【短期】**

1 ハード

市内にある既存の特色ある文化施設で行われている催し物などの情報を施設間で共有して市内外にPRすることにより、コンサート、演劇など市民が文化に触れる機会を増やしていく。

2 ソフト

PMFに参加している演奏者などによるワークショップ、ミニ・コンサート等を市民が主体となって誘致し、子どもから大人まで市民が音楽に触れる機会を増やすとともに、市内学校の吹奏楽のレベルアップのための楽器整備を支援する。

また、江別の歴史(古代から近代)や文化について子どもの頃から学べる機会を充実し、誇りをもって一人ひとりが江別について語ることをできるようにする。

3 ハートづくり

市民が音楽に親しみ、参加するまちとする。

**【中期】**

1 ハード

より多くの市民に利用してもらうために、市民の要望を踏まえ、既存の公共施設(情報図書館、公民館など)の役割を検討して、開館時間、休館日などを見直すとともに、周辺環境の整備を行う。

2 ソフト

吹奏楽などの指導者を育成し、小中学校などへ派遣することにより、文化のあるまちづくりを進める。

3 ハートづくり

江別が北海道の開拓の歴史の果たしてきた役割を市民が正しく理解し、また一流の音楽に触れる機会や子どもたちの指導者の育成などを進めることによって、市民一人一人が江別に誇りを持ち、文化のあるまちづくりに参加していく。

**【長期】**

1 ハード

市民のニーズにもとづく文化施設の整備を進める。

2 ソフト

中期の取り組みの成果を検証しつつ、継続的に行う。

3 ハートづくり

中期の取り組みの成果を検証しつつ、継続的に行う。

## 戦略テーマ名

# スポーツ振興による健康なまちづくり

## どんな状態にしたいのか

市民の生活習慣病による死亡者は他都市に比較して少ないが、日頃からスポーツに親しむことは健康の促進につながる。子どもから高齢者まですべての市民が日常的にスポーツに親しむことのできるまちにしていく。

## 立案背景

市民アンケートによれば、スポーツ施設に対する満足度は高い一方で、日頃からスポーツに親しんでいる市民は少ない。また、全道、全国大会に参加するような選手もいるように種目によってはレベルが高いものもあるが、設備や指導者が不足している。指導者を育成し、レベルの高い選手たちに対する遠征費用の補助などを期待する声もある。選手だけではなくスポーツ愛好者の裾野をひろげるために指導者の確保をはじめ、今は利用していない市民が気軽に利用できるような仕組みをつくっていくことが求められている。

## 立案に関するデータ

### ○ 江別市まちづくり市民アンケート（※前年度の取り組みに対する意識調査）

区分	19年度	21年度	23年度
週1回以上スポーツ活動に親しむ成人市民割合（%）	32.8	30.6	29.8
スポーツ施設整備の満足度（%）	66.2	68.3	71.5
スポーツ機会が充足していると思う市民割合（%）	71.9	72.4	74.3

### ○ 市内の主なスポーツ施設の利用者数の状況（人）

区分	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度
市民体育館	179,701	174,889	187,386	180,729	180,241
大麻体育館	132,263	131,858	134,639	142,758	135,098
青年センター	37,247	52,705	58,010	59,266	63,700
東野幌体育館	65,069	65,856	64,683	59,931	61,777
青年センタープール	36,849	47,524	49,671	47,766	45,537
飛鳥山公園	24,124	23,190	27,417	27,320	27,177
石狩川河川敷	6,998	8,132	9,482	7,806	7,155
はやぶさ運動公園	27,723	27,569	26,127	19,974	15,917

### ○ 生活習慣病による死亡者数の状況（道内他都市との比較）

指標名	調査年	単位	江別市	小樽市	北見市	岩見沢市	千歳市	恵庭市	北広島市	石狩市	平均
人口10万人あたり生活習慣病※による死亡者数	平成21	人	498.0	833.5	507.2	672.6	433.2	448.0	499.2	551.1	555.3

※生活習慣病は、悪性新生物、糖尿病、心疾患（高血圧性を除く）、脳血管疾患の4つ。

### 【短期】

#### 1 ハード

より多くの市民にスポーツに親しんでもらうために、既存施設の有効活用や、設備の充実を図る。

#### 2 ソフト

市内の小中学生に対する全国的なスポーツ大会参加への経済的な支援の充実をおこなうとともに、ご当地マラソン（石狩川周辺や野幌森林公園）など市内外から多くの参加者を集めることのできるイベントの企画を広く公募し、実施する。プロスポーツの試合や合宿を誘致する。小中学校の空き教室や、体育館などを子どもたちが自由に利用できるように開放し、冬場の運動不足の解消につとめる。

#### 3 ハートづくり

スポーツを通して人と人とのコミュニケーションを図り、仲間意識を高める。

### 【中期】

#### 1 ハード

スポーツ振興のために施設整備に対する市民の要望を調査する。

#### 2 ソフト

市民によるスポーツ振興のための組織を設立し、スポーツ愛好者を増やすとともに指導者を育成し、健康なまちづくりを促進する。

#### 3 ハートづくり

スポーツの技術的な向上を目指す。

### 【長期】

#### 1 ハード

市民ニーズを踏まえ、スポーツ施設を充実する。

#### 2 ソフト

地元のスポーツチームである「ノルブリッツ北海道」を市民一丸となって応援する。

#### 3 ハートづくり

スポーツを通して健康的な暮らしや生きがいを育む。

## 戦略テーマ名

# 効率的な行政サービスを推進するまちづくり

## どんな状態にしたいのか

オンブズ・パーソンのような行政に対する要望や監視を継続的に行う仕組みを設けることによって効率的、かつ市民の目線にもとづく行政サービスを行う。江別市自治基本条例の理念に基づき、総合計画の進捗状況など行政を常にチェックし、合理的な政策をおこなうために市民が主体となった市民会議を設置する。とりわけ子どもの視点からの意見を尊重し、持続的な政策運営を図っていく。

## 立案背景

市民に対するアンケートでは、行政サービスに対する満足度は、年々増加し、平成 23 年度では 73%となっている。しかしながら、窓口のワンストップ化、担当の明確化などの要望もある。なお、江別市では近隣自治体に比べて地方債の残高や、積立金など財務状況をはじめ、市民千人あたりの職員数も少ないなど現在の市の運営状態は良好であるが、今後、少子高齢化がすすむことが確実な状況のなかで、江別市独自の子育て支援、福祉サービスなどの向上などが求められる。

## 立案に関するデータ

### ○ 江別市まちづくり市民アンケート（※前年度の取り組みに対する意識調査）

区分	19 年度	21 年度	23 年度
行政サービス満足度 (%)	67.7	69.3	73.1
施設サービス満足度 (%)	70.4	73.0	74.9

### ○ 地方債、積立金、職員数の状況（道内他都市との比較）

指標名	調査年	単位	江別市	小樽市	北見市	岩見沢市	千歳市	恵庭市	北広島市	石狩市	平均
市民 1 人あたり地方債(借金) 残高	平成 21	万円	29.7	42.0	66.7	54.9	39.1	36.9	35.0	53.4	44.7
市民 1 人あたり積立金(貯金) 残高	平成 21	万円	5.9	1.6	10.1	13.9	6.1	2.5	5.0	4.8	6.2
市民千人あたり職員数	平成 21	人	5.5	7.8	7.3	6.3	7.2	6.7	7.0	6.9	6.8

### ○ 江別市自治基本条例について

自治基本条例は、「市民自治によるまちづくり」を進める上での理念や原則、基本的なルールなどを定め、議会・市長・市民それぞれの役割と責務、権利などを明確にし、市民が主役のより良いまちづくりの実現を目指すための条例で、平成21年7月に公布。

条例の策定にあたっては、市民の手でつくっていくこの考えのもと、平成 17 年に市民主体の市民懇話会という検討組織を設け、条例に関する研究や熱心な検討を重ね、多くの市民の声を聞きながら条例の骨子をつくり上げ、たくさんの市民の思いが込められている。

### ○ 江別市行政評価について

昨今の厳しい経済状況等を反映して、地方自治体の財政状況も厳しさを増しており、限られた行政資源を最大限に活用して行政運営していく必要がある。そのためには、常に事務事業を見直し、改善して、その時々社会・経済情勢や市民の要望を考慮し、かつ効率的・効果的に行政が執行されるように最適化することが必要であり、有効性・効率性・代替可能性などの統一的な視点での検証・見直しを行うことが不可欠である。

平成 22 年度からは、江別市が行った行政評価の内容について、市民の視点による外部評価を行うことを目的として、市民と外部有識者による行政評価外部評価委員会を設置している。

## ○ 江別市公の施設の指定管理者の指定の手続等（指定管理者制度）について

指定管理者制度は、「公の施設」の管理運営を民間事業者やNPO法人、地域の自治会などに幅広く委任する制度で、民間のノウハウや創意工夫によって、市民の皆様へのサービス向上や管理運営の効率化などが期待されている。

江別市では、平成18年度から指定管理者制度を導入しており、市体育施設や公民館、公園などの施設（平成24年4月現在261か所）で指定管理者による施設の管理運営が行われている。

## 戦略テーマ実現への方策

### 【短期】

#### 1 ハード

窓口のワンストップ化、市庁舎などの機能的な再配置などを進め、市民への行政サービスの充実を図る。

#### 2 ソフト

江別市自治基本条例の理念に基づき、市民が積極的にまちづくりに参加できる市民参加条例の検討や、新しい総合計画の取り組み状況をチェックするために、市民が主体となった市民会議を設置する。

また、市民が積極的にまちづくりに参加できるように、ホームページの充実など市民への情報提供のあり方を見直す。

さらに、子どもの視点を行政サービスの充実に生かすために、子どもたちの声を積極的に聞く仕組みづくりや、市民ニーズの多様化に合わせた市役所の体制整備を行う。

### 【中期】

#### 1 ソフト

江別市ゆかりの著名人によるふるさと納税のPRなどによる税収アップや、市の重点分野の指針の明確化を図り、市の財政基盤を強化する。

### 【長期】

#### 1 ソフト

江別市独自の子育て支援、福祉サービスなどの充実のため、市の財政基盤の一層の強化を図る。